

ていんさぐぬ花

Ver 1.0

本調子

中	中	尺中上	四	合老四	工	中	中王尺中上		

四	合老四	工	中	中	尺中上	四	合老四	工	
			てい	ん	さぐぬ	は	ー	な	や

中	ち	みさち	ー	に	す	ー	み	てい	う	や	ぬゆし
中	中王六	七	七	七	〇	六	七	中	中	尺中上	

四	ぐう	とう	や	ち	む	に	すみりー				
四	合老四	工	中	中王尺中上	四	合老四	工				

中	う	や	ぬゆし	ぐう	とう	や	ち	む	に	すみりー	
中	中	尺中上	四	合老四	工	中	中王尺中上				

四	合老四	工									
---	-----	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

一、ていんさぐぬ花や爪先（ちみさち）にすみてい

親（うや）ぬ教（ゆ）し事（ぐとう）
 ーや肝（ちむ）に染みり

二、天（ていん）ぬ群星（むりぶし）や読（ゆ）みば読（ゆ）まりしが

親（うや）ぬ教（ゆ）し事（ぐとう）
 ーや読みやならん

三、夜（ゆる）走（は）らす船（ふに）や子（に）ぬ方（ふあ）星（ぶし）

目当て（みあてい）
 我（わん）産（な）ちえる親（うや）
 ーや我（わん）どう目当て（みあてい）

四、誠（まくとう）する人（ひと）や後（あと）や何時（いち）までい

ん
 思事（うむくとう）ん叶てい千代（ちゆ）ぬ栄い

五、宝玉やていん磨かりば錆びす

朝夕肝（ちむ）みがち浮世（うちゆ）渡ら

六、なしば何事（なにぐとう）んなゆる

事（くとう）やしが
 なさぬ故（ゆい）からどうならぬ定み